

# ホクコーダイロン

■種類名：DCMU水和剤  
 ■有効成分：DCMU .....80.0%  
 ■PRTR法指定物質：DCMU [第1種] .....80.0%

■登録番号：第11856号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：1971.09.23  
 ■性状：類白色水和性粉末 45μm以下  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：300g×20袋

## 【特長】

- 果樹、畑作から非農耕地まで適用がある土壌処理除草剤。
- 土壌表面に処理層を形成し長期間雑草の発生を抑える。
- ノニオン系展着剤を加用した薬液を、雑草に十分付着させると生育初期の雑草も枯殺可能。

## 【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10aあたりの使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
陸稲	—	一年生雑草	は種直後	60～100g	100 ℓ	1回	全面土壌散布	1回
だいず あずき			は種直後～発芽前	70～100g				2回以内 (出芽前は1回以内、生育期は1回以内)
らっかせい			は種直後	60～100g				1回
ばれいしょ			植付後～萌芽前	70～100g				
らっきょう			植付覆土後	60～100g				
さとうきび		多年生 広葉雑草	植付覆土後 又は培土後	100～150g	70～100 ℓ	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内 (土壌散布は1回以内)
麦類(冬作)			ヤエムグラ 一年生雑草		ヤエムグラ 発芽揃期	60～70g	1回	全面土壌散布
りんご、なし、もも、かき、かんきつ、ぶどう、おうとう、うめ		一年生雑草	雑草発生前	100～200g	100 ℓ	1回	ノニオン系展着剤を加えて雑草茎葉散布	
あま(単作)			雑草生育期	200～400g				
桑			子葉展開期	60～80g			全面土壌散布	
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等	一年生雑草	雑草発生前	60～200g	3回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壌散布	3回以内	
			雑草生育期	200～400g				植栽地を除く樹木等の周辺地にノニオン系展着剤を加えて雑草茎葉散布

## 【効果・薬害等の注意】

- 覆土はできるだけ土を細かく砕いて、必ず3～4cmの厚さに均一に行うこと。
- 砂質で水はけのよい畑や雨の多い時期にはDCMUが土中深く浸透して作物の根をおかし、薬害を起こすおそれがあるから注意すること。

- 薬液はときどきかきまぜながら、むらのないように散布すること。
- 近くに根の浅い作物がある場合は、散布液が流れて行かないように注意すること。
- 使用后、容器や散布器具は必ず十分水で洗うこと。
- さとうきびの新植後、分けつが始まる頃に薬剤がかかると薬害が発生することがあるので、さとうきびにかからないように注意して散布すること。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
  - ◆ 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
  - ◆ 散布薬液の飛散、あるいは本剤流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分に注意して散布すること。
  - ◆ 水源池、養魚池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。
  - ◆ 散布薬液の飛散によって自動車やカラータンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- 蚕に対して影響があるので、桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用は避けること。
- ❖ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係ない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。